

今回は「社会人の教科書」という本からです

相手との距離感を誤るな

中途入社が増え、雇用形態が多様化している現代の組織では、立場と年齢が逆転するケースが増えています。そうした状況の中、言葉遣いをどうすればいいのかわからないという話をよく耳にします。

僕は、比較的年功序列の考え方で自分の行動を決定します。**年齢が自分より上の人には、無条件で敬意を払うようにしています。**たまたま会社の立場が上だからといって、自分より年上の人に偉そうな口をきいている人を見ると、正直気分は良くありません。

ライフネット生命では僕は立場が上の方にいますが、常に実践しているルールがあります。**学年が一つでも上の人には、必ず敬語を使います。**敬称もさんづけです。学年が同じ人の場合は敬語を使うか使わないかはその時々で変わります。決して名前を呼び捨てにすることはありません。

その代わり、僕は生まれたのは 76 年 3 月なので、同級生には丁寧語を使う代わりに、たった 1 ヶ月しか違わない 76 年 4 月生まれの人には年下扱いをしています。

その一方で、**社外の人には年下でも敬意を払います。**

ソーシャル・ネットワークワーキング・サービスのグリーを率いる田中良和社長と懇意にしているのですが、学年でいうと彼は僕の 2 年下です。親しくしているのですが、僕は彼を決して「田中くん」とは呼びません。優れた実績を上げている経営者として敬意を持って、会話でも敬語を使うことを心掛けています。

彼も僕を「岩瀬さん」と呼んでくれています。あそこまで大成功を収めると、友人になったら「タメ語」になる人が多い中、敬語を使う姿勢をいまだに崩していません。

僕が苦手なのは、初対面やそれほど良くも知りもしない段階で、年齢だけを基準にして無条件に偉そうにする人です。社会の中では僕などまだまだ若い部類ですから、年上の方とのお付き合いのほうが多い。だからと言って初対面で「いや、岩瀬くんさあ〜」と言われるのは、正直あまり心地よくありません。自分がそうされたいということもありますが、知らない人にはやはり丁寧に接すべきだと思います。

会話以外で相手との距離感に気をつけるべき場面は、メールでの敬称です。若い人にありがちなのは、社外の年齢や立場が上の人と仲良くなったり、可愛がってもらおうと、相手と接近したと勘違いしてしまうことです。

学生向けの講演会に呼ばれ、講演のあとの飲み会で仲良くなった学生から、こんなお礼のメールが届きました。「岩瀬さん、昨日はありがとうございました。また飲み회에連れて行ってください！」そのメールの返事に、僕はこう書きました。「**〇〇様、昨日はお疲れさまでした**」

よそよそしいと思いますか？社会人の礼儀として、仕事上のつき合いの関係では、一定の距離感を持って接することが望ましいとされています。もちろん、相手に悪気がないことはわかっています。しかし、若い人は勝手に仲良くなったり勘違いし、つい近寄り過ぎる傾向があるようです。僕が「〇〇様」とメールを返したことで、学生はその距離感に気づいたと思います。

相手との距離感を誤らないように気をつけてください。若い人にとっては苦手なところかもしれないので、**仲良くなっても距離感少し遠めにしておいたほうが無難かもしれません。**

筆者は、自分より年上の人はどう対応していますか？

()

筆者が常に実践しているルールは何ですか？

()